

令和2年度 学校評価(自己評価・学校関係者評価)報告書

令和 3 年 3 月 19 日
学校法人暁の星学園 高知聖母幼稚園

1. 本園の教育目標

豊かな愛の心を持ち、主体的・積極的に生きる人間性の基礎を育てる

(教育方針)

カトリック精神に基づいた幼児教育を行うとともに、マリア・モンテッソーリの教育指針に沿った人格形成を目指す

(目指す幼児像)

- ・神と人と自然を大切にする子ども
- ・思いやりと感謝の心を持つ子ども
- ・明るく素直な子ども
- ・自分で考え、自分で行動し、責任を持つ子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

モンテッソーリ教育の充実を図り、幼児ひとりひとりを大切にされた質の高い教育の実践を目指す

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	「10の姿」を基盤に子どもたちの生きる力が育つ環境作りに取り組んでいく	B	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍で密を避ける環境を考慮しつつ、新たな視点で子どもたちの生活や、遊びの環境作りに力を入れて取り組んだ。新しい生活様式の中でも、子どもたちが「ひとりでできる」喜びを得られる環境を目指した。・年長児は行事や集団遊びを通して、子ども同士で話し合い協力し合う姿がみられ、大人が介入しすぎない環境の大切さを感じた。
2	安全対策として、危機管理の面と衛生管理の面において職員の意識と実践能力の向上を目指す	B	<ul style="list-style-type: none">・衛生管理の面においては、特に新型コロナウイルス感染防止対策に重点を置き、「学校における新しい生活様式」の考え方を基盤に日々改善を重ねて真摯に取り組むことができた。職員の衛生管理意識と共に、園児の衛生習慣も向上している。・危機管理の面においては、様々な場面を想定して避難訓練を行い有事に備える意識が高まっている。全職員がいかなる時にも的確な行動をとれるよう、実践能力を身に付けていく必要がある。・園児の大きな事故やケガにはつながらなかったが、ヒヤリハットな場面は数回見られた。安全教育の充実も図りたい。
3	子育て支援に力を注ぎ、幼稚園が開かれたコミュニケーションの場となるように整備する	C	<ul style="list-style-type: none">・対面でのコミュニケーションの場を設ける事が難しい状況下で、園からの動画配信や手紙による伝達の工夫に取り組むことはできた。しかし保護者間のかかわりを深める役割は十分に果たせなかった。・感染対策を徹底した上での園庭開放は、少人数の参加であったが楽しい遊びの場を提供することができ、一定の効果はあった。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>今年度は新型コロナウイルス対策に多くの時間を割き、園児の生活環境・行事の構成・職員の危機管理意識の徹底に重点的に取り組んだ。「学校における新しい生活様式」を基盤に衛生管理に取り組んだ結果、園児の衛生習慣の向上にもつながった。また制限がある中で遊びの環境を工夫し新たな取り組みができた事は、子どもたちの経験を豊かにし、一人ひとりの成長につながったと感じる。</p> <p>今年度も教職員全体で振り返りと改善・実践の姿勢を持ち続け、自園の教育の質向上のために一致して取り組むことができたと考える。しかしコロナ対策のために通常業務に加えて消毒作業や検温・記録などの実務が増え、モンテッソーリ教育等の園内研修に十分な時間をかける事が叶わず次年度への課題となった。また、コロナ禍においては幼稚園を開かれたコミュニケーションの場にするは大変困難であり、この点についても次年度引き続き取り組んでいきたい。</p>

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	自園の教育目標に沿った保育計画と内容の充実、また保育者としての指導力向上に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・保育全体をモンテッソーリ教育の視点から組み立て、「10の姿」を意識した保育環境を整える。自園の目指す幼児像の実現に向け日常の見直しと共に、「神さまのお話」や世界に目を向けたお話などを意識して保育の中に取り入れ、心を育てる教育に重点を置く。 ・教職員は積極的に園内外の研修会に参加することで自己研鑽に努め、よりよい保育を提供できるようにする。
2	子育て支援に力を注ぎ、幼稚園が開かれたコミュニケーションの場となるように整備する	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染対策をとりながら、保護者対象の「母親教室」を開催することにより、幼稚園と保護者間のよい交流の場を提供していく。また、園庭開放にも引き続き力を注いでいきたい。 ・幼稚園での子どもたちの様子を保護者に伝える方法を工夫し、安心して幼稚園に預けて頂けるようにする。また、園からの情報発信の方法についても工夫と努力を重ねる。
3	安全対策として、特に南海トラフ地震に対する教職員の柔軟な対応能力向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・常に危機意識に対する共通理解を怠らず、各人が非常時に臨機応変な行動がとれるような避難訓練計画と実施を行う。 ・園舎は耐震工事が完了しているが、建物は古いためより丁寧な安全点検を行い、園児の怪我につながらないように留意する。 ・子どもたちの動線を意識した生活環境の整備を定期的に行う。

6. 学校関係者評価委員会の評価

- ・コロナ禍において感染防止対策が大変な中、幼稚園は行事や保育活動を最大限工夫し、子どもたちが楽しく安心して生活できるよう取り組んでいた。園からの情報発信についても、動画配信やお便りの電子化を取り入れたことは大変良かった。
- ・今年度は保護者間の交流や、保護者と園との関わりを深めることが困難な状況であったため、次年度は、それを解消できるよう更なる工夫を期待している。
- ・防災面においても定期的な避難訓練の実施と、安全対策への取り組みがみられた。